

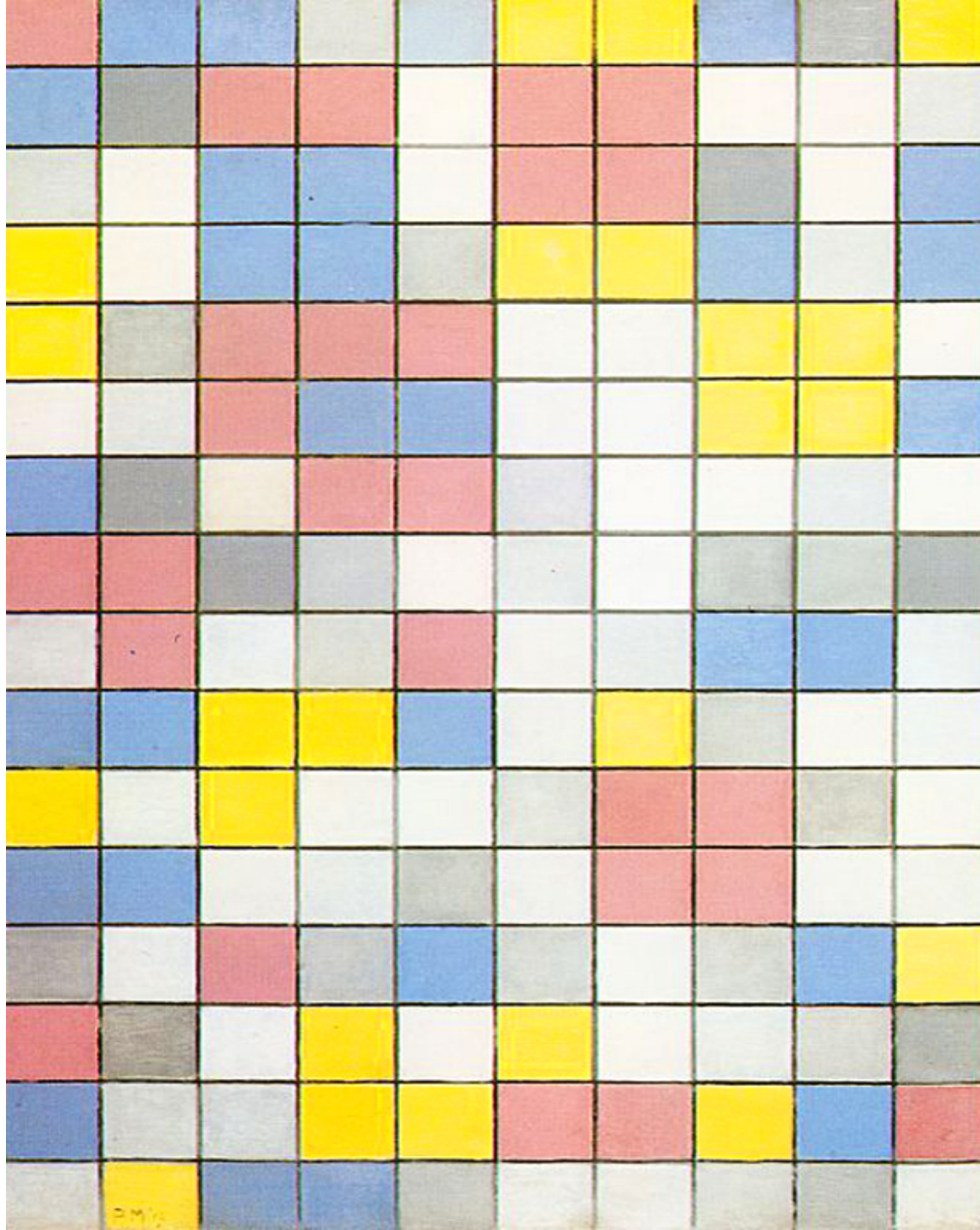
Electric beauty 04



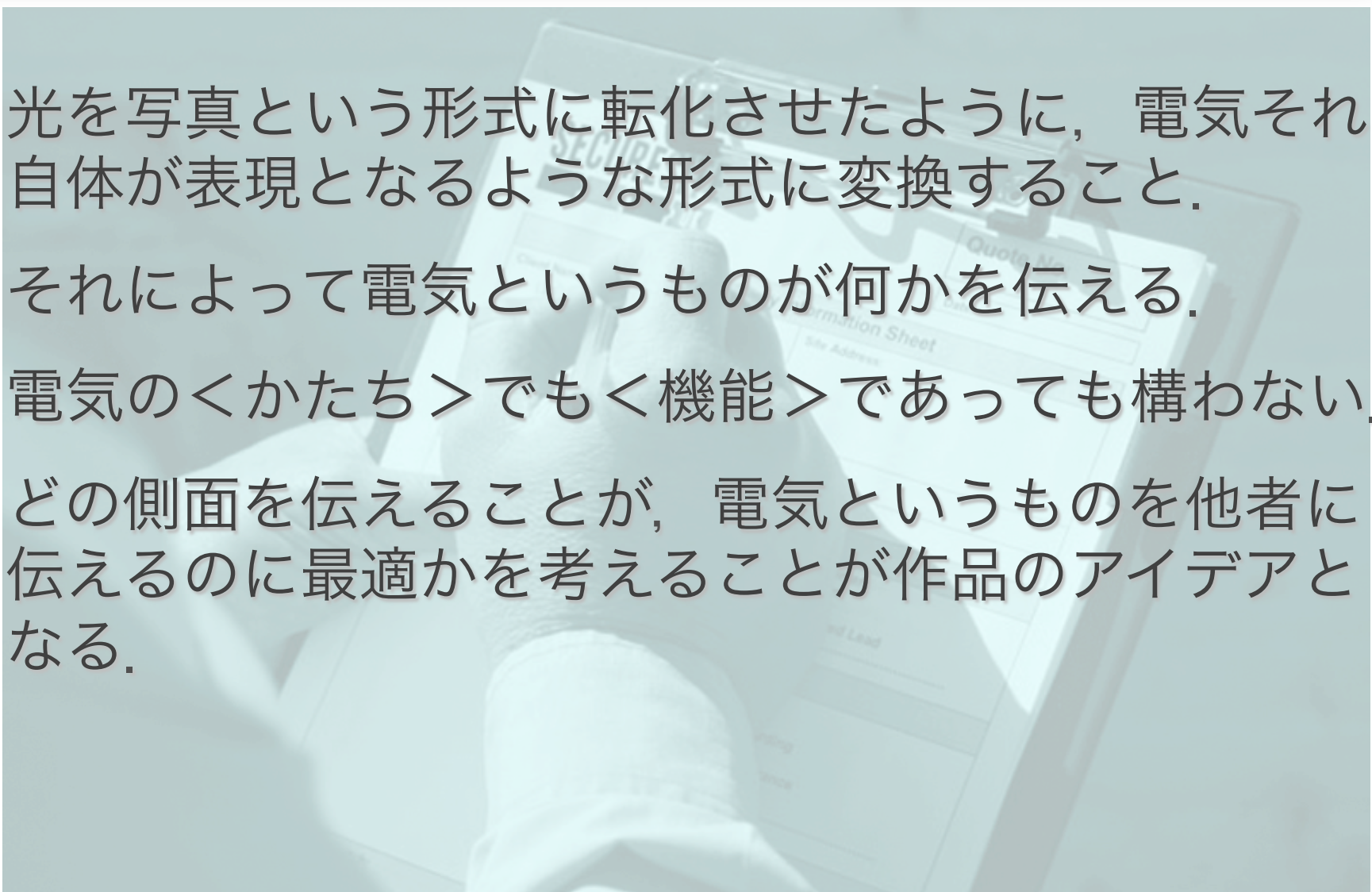
2013.10.25

構成の手順

1. 課題についての確認
2. 前提となる条件
3. 構造から考える
4. 機能から考える
5. 新しいとは何か
6. アイデア構築の練習
7. 作業の順番
8. Maker Faire Tokyo
9. 中間発表の予定



課題についての確認



光を写真という形式に転化させたように、電気それ自体が表現となるような形式に変換すること。
それによって電気というものが何かを伝える。
電気の＜かたち＞でも＜機能＞であっても構わない。
どの側面を伝えることが、電気というものを他者に伝えるのに最適かを考えることが作品のアイデアとなる。

前提となる条件

どのような構造をしていると美しいか.

どのような機能があると便利か.

どのような構造と機能が組み合わさっていることがデザインとして最適か.

構造と機能のバランスを考え、どちらかに偏り過ぎないように気をつける.

構造から考える

実体のない電気の＜かたち＞とはどのようなものか。
液体ではないが流動性のあるもののかたちを伝える
ためには、どう捉えればよいか？

条件を変えた時、電気そのものにどのような変化が
生じるのか。

例えば電気は蓄積できるといった点から考えてみる。

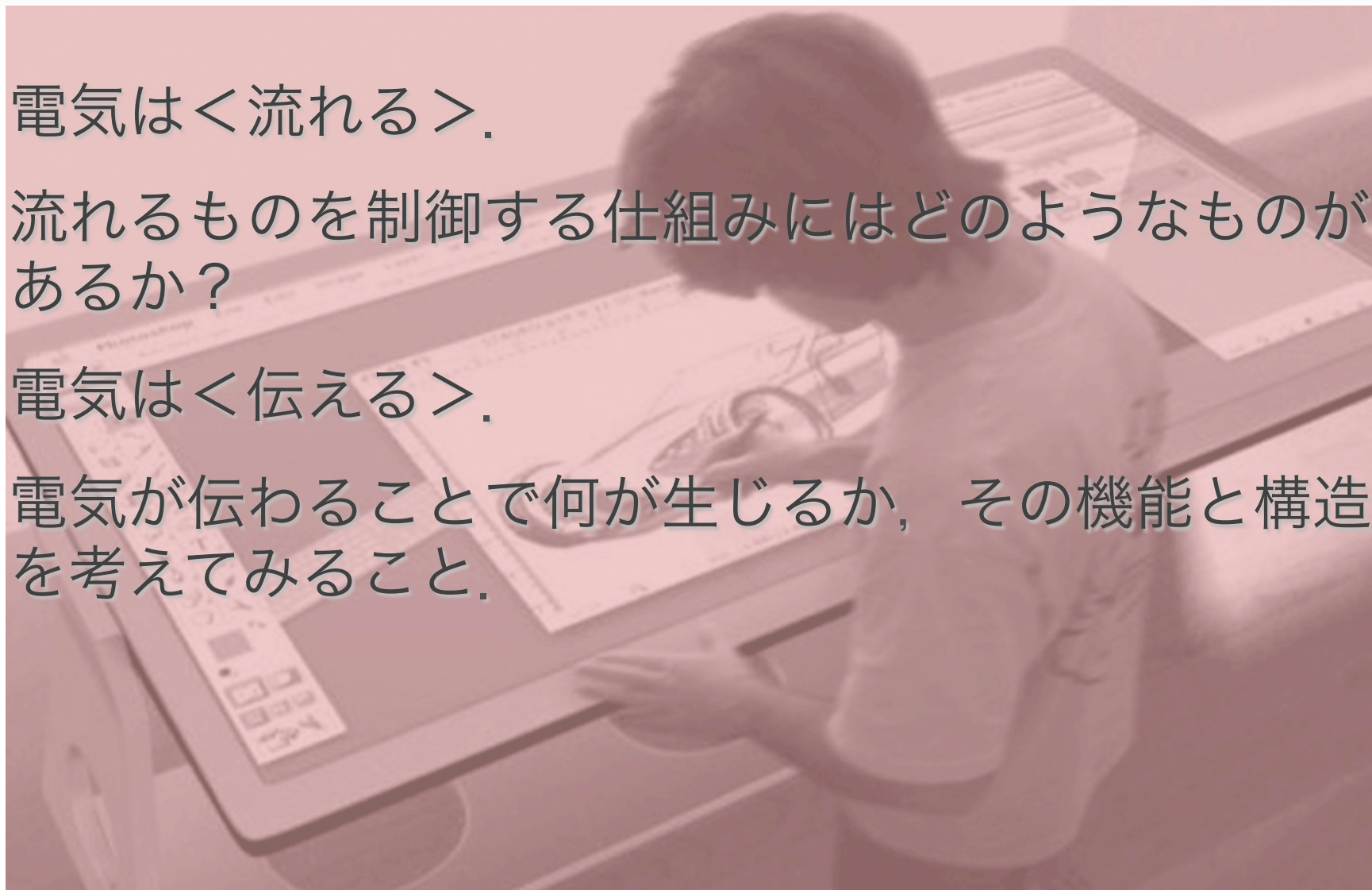
機能から考える

電気は<流れる>.

流れるものを制御する仕組みにはどのようなものがあるか？

電気は<伝える>.

電気が伝わることで何が生じるか、その機能と構造を考えてみること.



新しいとは何か

＜新しいアイデア＞とは一体どういうものか？

ヒトが生み出すものには、必ずルーツがある。

ルーツを明らかにし、何がどのような組み替えられた結果として＜新しいもの＞となったかを見つけて出すこと。

→ 題材に関わる要素（情報）を正確に把握する。

→ 必要な情報を丁寧に集める。

アイデア構築の練習

身に付けるもの＝身体との関係からアイデアを発想する.

体の部位を一カ所選択し，そこに付けたり，そこで使ったりする道具を発案してみる.

まず当該部位の構造と機能を整理する.

表面の形態，内部の構造，運動機能などによって，道具との関係がどのような影響を受けるかを正確に考慮すること.

作業の順番

1. 既にあるものを出来るだけ書き出す.
2. アイテムを分類（グループ化）する.
3. 異なるグループ間での共通項を見つけ出す.
4. 構造・機能面でフィットするアイテムを選択.
5. それらと体の部位がマッチするように最適化.
6. どのような素材で作ったらよいか考える.
7. 余分な要素（形も含む）は削ぎ落とす.

Maker Faire Tokyo 2013

希望者と11月3日（日）に見学。
参加希望者は事前に前売り券を購入しておくこと。
（当日券より安いのとステッカーが付いてきます）
17時まで会場内を見回る予定。
プロアマ問わないモノづくりの今を確認したい人は
是非参加するように。



中間発表の予定

11月8日：

宇佐川， 安齋， 藤掛， 李， 生田

11月15日：

鈴木， 宮本， 西岡， 伊藤

発表内容・形式

アイデアを簡潔かつ具体的に示すこと。

課題のテーマをどう理解し、何をどのように作るかを発表する。

図やスケッチを積極的に使い、わかりやすく伝える工夫をすること。

質疑応答を含めて一人15分以内。

10分経過したら合図をする。

パワーポイントかOHCを利用する。